

令和7年度 第3回 学校運営協議会 兼

第2回学校関係者評価委員会 兼 第2回校内コンプライアンス委員会 記録

1 日時

令和8年2月 17 日(火) 午前9時 30 分から午前 11 時 30 分まで

2 場所

沼津視覚特別支援学校 会議室

3 出席者

(1)学校運営協議会委員

- ・ 第五地区西連合会自治会会長
- ・ 東部社会教育振興協議会事務局長
- ・ 特定非営利活動法人ティンクル副理事長
- ・ 沼津ライオンズクラブ会長
- ・ 三島市主任児童委員
- ・ 本校PTA会員

(2)学校職員

- ・ 校長、教頭、事務長、各部主事・主任、教務・情報図書課長、支援センター長



4 会議の内容

- (1)校長あいさつ、日程説明等
- (2)校内参観(幼小学部、中学部)
- (3)令和7年度 学校自己評価の報告
- (4)委員からの御感想、御意見、御提言等
- (5)不祥事根絶に向けた取組の報告(コンプライアンス委員会)
- (6)その他(卒業式の案内、旅費書類の記入等)

5 会議報告

＜学校自己評価の報告と協議＞

- ・ **自己評価の概況**：今年度の経営計画に対し、概ね A 評価が 7 割、B 評価が 3 割となった。来年度は重点項目を「学び」「安全安心」「支援体制」の 3 本柱に再編する方針が示された。
- ・ **専門性の向上と研修**：はごろも夢講演会、外部講師(大内進氏)による「触察」の意義を確認する研修等を実施し、児童生徒アンケートでは「授業が楽しい」との回答が 100%であった。
- ・ **キャリア教育の課題**：保護者アンケートでの評価が 78.9%に留まり、教員側の評価を下回った。学校側からは、教員はキャリア教育を実施するだけでなく、個別面談等で学んだことを保護者へお伝えしていき、保護者と学校で共有を図っていきたいことを伝えた。委員からは、「キャリア教育は幼児児童生徒の発達段階や年齢に応じて行わなければならない。

先生方はよく指導をしているので、今している指導がキャリア教育につながることを保護者へ伝えていく必要がある。」との提言があった。また、「何のための学習か、将来のどこに繋がるかを丁寧に伝える必要がある」との意見や、「就労ありきのスキル習得がゴール（福祉ありき）にならないよう、本人の能力を伸ばすことを優先すべき」などの提言があった。

・ **センター的役割とバリアフリー**： 沼津駅ホームの柱と点字ブロックの近接問題について、学校が関係機関（バリアフリー協会等）と連携して改善を働きかけた事例が報告された。委員からは、専門性を生かして地域のバリアフリー情報を積極的に発信することの重要性が指摘された。

・ **ICT・AI の活用**： 本校での重複障害学級での新聞読み上げ AI 活用や、Google Gemini を用いた学習支援の試行など、視覚障害を補完する技術活用が進んでいることが紹介された。委員からも、学校の紹介をInstagramなどの SNS や AI を活用し、「諦め」ではなく「攻めの姿勢」で選択するよう、希望を見出せるような発信をしていく必要があるとの意見が出た。

＜不祥事根絶に向けた取組（コンプライアンス委員会）＞

・ **年間の取組**： 情報セキュリティ研修、会計処理研修、人権研修、いじめ・人権チェック等の実施状況が報告された。

・ **身体接触への配慮**： 視覚障害教育において不可欠な身体接触を伴う指導について、ハラスメント防止の観点から「1対1にならない体制」「事前説明の徹底」「異性指導への配慮」を行うことが再確認された。

・ **生徒の相談体制**： アンケートで「話せる友達がいない」と回答した生徒に対し、担任やスクールカウンセラーによる迅速な個別面談等のフォロー体制が整っていることが報告された。

＜その他＞

・ **卒業式の案内**： 今年度は感染症対策による人数制限を緩和し、学校運営協議会委員への来賓案内が行われた。

・ **事務連絡**： 旅費に関する書類の記入がされた。

